

# 秋分儀式

I O S 儀式魔術文書 AE05A



THE OFFICIAL ORGAN  
OF  
I O S

PUBLICATION IN CLASS D  
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING  
I O S ASTRAL TEMPLE WORKING

## 第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。

《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に秋分点の前後48時間以内に実施すること。

儀式内容は、七宮殿を巡るメルカバ・ヘハロース神秘主義のコンテクストに従い秋分の祝祭を実施する。

### 1 七宮殿

古典古代後期のメルカバ及びヘハロース文献の主要な登場人物に擬されたラビ・アキバは、次の問いかけを発する。

「誰が七宮殿を観想し得るや。

しかして、上昇し、天の天を目の当たりにし、部屋部屋を巡り、

『われは、□の部屋を見た。』と言えるのか。」<sup>(1)</sup>

この問いは、メルカバ・ヘハロース神秘主義の特徴を要約している。

第一のセンテンスの「七宮殿の観想」とは、霊的な内観の手順を示している。そして、第二のセンテンスの「上昇、天の天の眺望、部屋部屋の巡回」は、信仰、実践及び黙示を意味する。第三のセンテンスの「IHの部屋の展望」は、観想的体験と参加者を示している。<sup>(2)</sup>

達人たちの旅は、達人の想像力により、心のなかで達成され、概念的な霊的境界線を越える観想的、または、恍惚の過程として表現されている。一方、その旅は、実際の肉体をもって行う神話的宇宙において達成される天界への上昇である。知られざる径をとおり、有翼の聖なる獣がうなり、光輝く天使が飛び回り、火の馬が疾駆するなかを輝ける天界に向かう。かれらは火の河を跨ぐ橋を渡り、閉鎖された門をくぐり、怒る天使の要求を満たし、魔術的紋章を提示し、秘密のパスワードを繰り返す、無慈悲な試練を体験し、神の玉座にいたる。感覚や意識の変遷は、しばしば、神話的類型のなかでの象徴的な死と再生と肉体的な変容により与えられた。

神秘的な神聖概念は、やはり神話的な言葉で説明された。ヘハロースの神は、巨大な体躯をもち、厳格な衣装を纏い、王冠を戴いた王として示される。神は天上の宮殿の栄光の王座にすわり、その周囲を神聖なる生き物が乱舞し、神の栄光を唄う。達人は旅の終わりに、神人同一形態の神に邂逅する。

神の玉座に至る途上に体験する七つの象徴的な空間については、『セフェル・イエツィラー』第4章15節に記述されている。

七複字：それには七宇宙、七天、七大陸、七大洋、七河、七砂漠、七曜、七週、七ヨベル、そして聖なる宮殿が対応する。それ故に、主は七を慶したもう。<sup>(3)</sup>

これらの象徴配置の解釈は、カバラの各学派により微妙に異なる。

ここでは黄金の夜明け団の解釈を見てみよう。

かれらは、アッシャー界、イエツィラー界及びブリアー界における象徴図形を作成した。

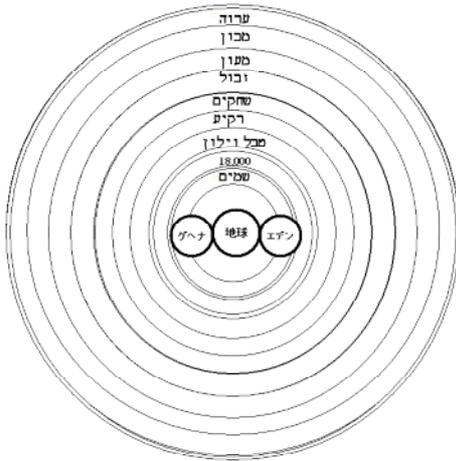
アッシャー界における七天は、われわれの地上を中心に置き、第一天テベル・ヴィロンから、ラキア、シェカキム、ゼブル、マオン、マコン、そして最上位の第七天アラヴォートに至る同心円で示される。マルクトに帰属する蒼穹はシャマイムと呼ばれるが、これをヴィロンと呼ぶこともある。ヴィロンとは帳である。また、第一天と融合させ、テベル・ヴィロン・シャマイム(蒼穹の帳)と呼ぶこともある。

(1) ラビ・イシュマエルの語るラビ・アキバの問いより。ヘブル語原文は、Edited by Hengel and Schafer, *Synopse zur Hekhalot-Literatur*, Tübingen: J.C.B.Mohr, 1981, p.209. ドイツ語訳は、Edited by Peter Schafer, *Übersetzung der Hekhalot-Literatur III*, Tübingen: J.C.B.Mohr, 1989, p.257.

(2) Vita Daphna Arbel, *Beholders of Divine Secret-Mysticism and Myth in the Hekhalot and Merkavah Literature*, Albany: State University of New York Press, 2003, pp.1-2.

(3) Translated by Aryeh Kaplan, *Sefer Yetzirah*, York Beach: Weiser, 1990, pp.185-187.

## アッシャー界の七天



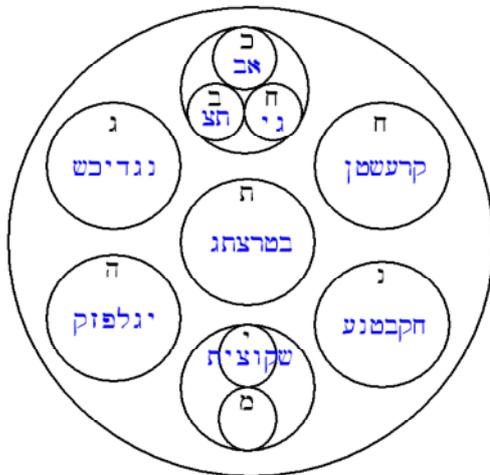
位 層	帰属セフィラ	ヘブル語名称	発 音
第七天	上位界	ערוה	アラヴォース
第六天	ケセド	מכון	マコン
第五天	ゲブラー	מעון	マオン
第四天	ティファレト	זבול	ゼブル
第三天	ネツァク	שחקים	シェカキム
第二天	ホド	רקיע	ラキア
第一天	イエソド	טבל וילון	テベル・ヴィロン
蒼 穹	マルクト	שמים	シャマイム

注: シャマイムは、単にヴィロンと呼ばれることもある。

次にイエツィラーの七宮を説明するために、黄金の夜明け団は、ラビ・アブラハム・コーヘンの『天界の門』の図像を流用して、大円のなかに七つの中円と上端と下端の中円にさらに3個と2個の小円を配した図形を用いて七の象徴を説明した。<sup>(4)</sup>

さらに、イエツィラー界の七宮として、その各円に聖42文字を分割して当てている。聖42文字は、『創世記』の最初の各フレーズから文字を取って組み立てた名前である。  
(何故、42文字なのかについては、The Kabbalah Manual-Dancing with Angelsを参照<sup>(5)</sup>)

## イエツィラー界の七宮



宮 殿	聖42字配分	帰属セフィラ
第七宮	כ	ケテル
	ל	コクマー
	א	ビナー
第六宮	קרעשמן	ケセド
第五宮	נגדיכש	ゲブラー
第四宮	בטרצתג	ティファレト
第三宮	חקבטנע	ネツァク
第二宮	יגלפזק	ホド
第一宮	שקוצית	イエソド
	なし	マルクト

注: 聖42字の解釈は、アレイ・カプランに準拠している。

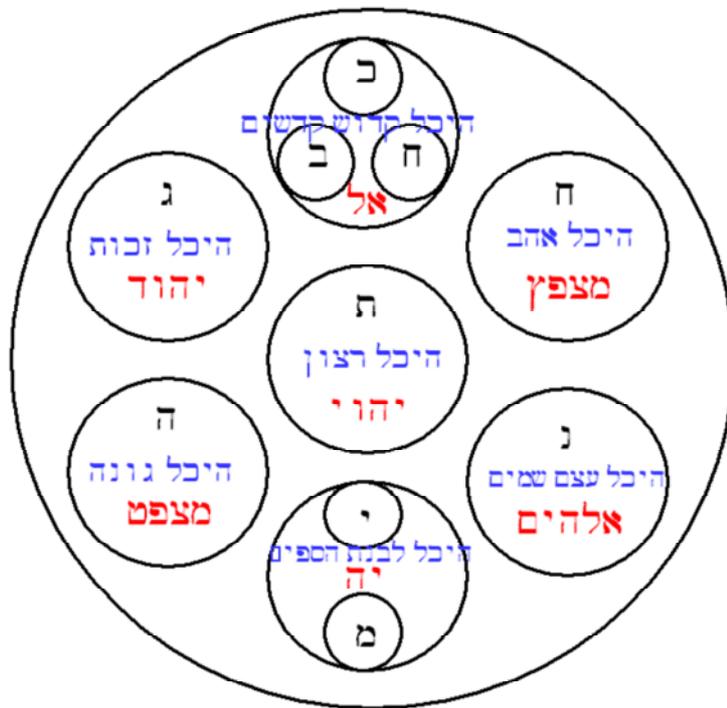
ブリアー界の七宮には、第一宮へハール・レバノース・ハ・サフィル（サファイヤの煉瓦で出来た宮殿）から、へハール・ゴナー、へハール・オツ・ハ・シャマイム、へハール・ラツォン、へハール・ザコース、へハール・アハバ、そして第七宮へハール・コデシュ・コデシム（聖の聖

(4) R.Abraham Cohen Irria, *Liber PORTA COELORUM*, in Kabbala Denudata, Zurich: Georg Olms Verlag, 1999, p.243, no continuous page number, this explains PORTA COEORUM's page.

(5) <http://www.cc.utah.edu/~rfs4/jkm.htm>

なる宮殿)までの宮殿名が、<sup>(6)</sup>支配天使名とともに、同じ図形の上に表記されている。

## ブリアー界の七宮



## 2 司官の配置

### (1) 司官の指定

本儀式に必要な司官は、PRAECEPTOR (P C)、すなわち「先導者」の1名である。

P Cは、黄金の夜明け団の伝統的な白の法衣を纏い、白のネミスをかぶり、マントやその他の役職記章はつけていない。右手に「ハイエロファントの棒」をもつ。それは神殿を開き、つなげる権威の象徴である。

他の参列者は、内陣団員は白の法衣と白のネミスを、外陣団員及びプロベিশヨナーは、黒の法衣と白黒縞のネミスをかぶり、手には何も待たず参集する。

ディオーン・フォーチュンの内光協会のアストラル神殿儀式では、参集者は儀式場に座ったまま、光体(かれらはアストラル体と呼称)を下位アストラル神殿に投射する。そのとき光体は全裸であり、神殿の着衣の間(Robing Room)において、光の法衣を纏う。

### (2) トーラーの宰相の召喚

司官は、マルクト神殿で律法の公爵を召喚し、メタトロンの顕現たる大天使の長上が「肉の衣を去る」までは、実効上の神(天使を使役する者)として活動する。この場合「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

## 3 アストラル神殿の構造

マルクト神殿を使用する。

(6) Dan Cohn-Sherbok, *Jewish Mysticism - An Anthology*, Oxford : Oneworld Publications, 1995, pp.72-75.

## 4 魔術の技法的側面

### (1) 黎明視

認知神経心理学の研究成果によると、人間の脳は外部の視覚情報が混乱すると脳内に蓄積された様々な視覚像を投影することがある。視覚情報の混乱は良く見えない場合に発生するので、緑内障等の病気で視力が低下しているとき、或いは暗い場所で物をみようとしたとき、水晶球などの不鮮明な像を結ぶものを見ているときに発生しやすい。これらのエラー・パターンは、<sup>(7)</sup>かなり高い確立で発生する。この視覚情報の混乱による幻視を「シャルル・ボネ諸侯群<sup>(8)</sup>」と呼ぶ場合もある。

古来、魔術師はこの原理を熟知して、幻視の導入に使用していた。視覚像の混乱は、古代神オーディンのような片目の賢者の伝説、黄昏時が逢魔が時であるとの解説、スペキュラムの利用等に適用された。一方、言語入力による混乱による操作には、呪文の反復（単純類似構音の連続による記憶操作<sup>(9)</sup>）、ゲマトリア等の文字の操作などが多用された。

人間の脳、特に伝統的な秘教的訓練の施された人間の脳は巨大な情報のプールである。上記の技法は、認知神経心理学の説明した脳の認知プロセスを意図的に混乱させることで、意識が把握できない脳の共有情報（個人的、集合的無意識）を利用するために行われた。今回は、比較的簡単に実践できる視覚像の混乱を利用した黎明視という技法を適用する。

### (2) 幻視像の構成

幻視像の構成の一部に、ユダヤ系カバラ「The Kabbalah Manual-Dancing with Angels」のサイトのイメージを参考にしている。

## 5 身辺の準備

### (1) 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に快適な椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

**部屋を薄暗くする。小さな照明を利用する場合は、背後に置き、その光を直視しないように配置する。**

何度も反復して練習し、象徴や、儀式の細部まで呑み込んでいても、外部の妨害ですべてが台無しになることもあり得る。準備は、怠りなく。

### (2) シナリオ

今回は、シナリオ文書を単純化したので記憶してもらいたい。黎明視の妨げとなるので、テープの録音も不要である。

あなたの行動する部分は緑の文字で記してある。

神聖名を発音するときは、注意深く行うこと。

事前のリハーサルは勿論、必須とも言える。

### (3) 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

(7) グザヴィエ・スロン、『認知神経心理学』、白水社、1995年、39-40頁。

(8) <http://jiten.com/dicmi/docs/k12/17252s.htm>

(9) スロン前掲書、63、64頁。

## 第2章 儀式

### 1 神殿への入場

この準備的作業は、光体のレベルではなく、生身の肉体で行う。

参加者は、東に面して座り、目をかすかに開き（いわゆる半眼の状態）にする。視線は足下に落とし、家具などの周囲の状況が明確に像を結ばないようにする。瞼を開く程度を変えて、この焦点を結ばない状態を維持する。気持ちが悪くなった場合は、普通に眼を開いて、もう一度調整する。

半眼のまま、深く呼吸をする。呼吸は肺だけではなく、全身の皮膚を通して行う。一息ごとに、喉や鼻孔のみならず、全身の皮膚から、周囲に満ちている生気が肉体に吸い込まれ、全身の細胞を活性化する。

あなたは光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとポアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、兄弟姉妹たちが集っている。

### 2 ウシャブティ

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るPCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」PCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。アケファロスの姿形をもつ参加者のひとりひとりには、自ら形成した四大の壺灯が寄り添い四色の光を放っている。

PCは、廊室の中央の扉をくぐり、本殿に入る。  
兄弟たちは、廊室でしばし準備のできるのを待つことになる。

### 3 物見の塔の儀式

PCは、祭壇の西側に回り込む。自らのオーラを広間全体に広げる。そして、拡張した白く輝くオーラを保持したまま、小五芒星の追儼儀式を行う。

引き続き、小六芒星の追儼儀式及び物見の塔の儀式を行う。

参加者は、その動きを廊室から、おぼろげな円運動による渦の発生として捉える。詳細なPCの動作を視覚化する必要はない。

### 4 入場及び宣言

PCは神殿の西の壁を背にして、東を向き合図の鈴を鳴らす。

PCの霊的な鈴の合図で、参加者の入場が始まる。  
兄弟たちは右側、すなわち南の壁際に立ち、姉妹は左側、北の壁際に立つ。

PCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

PC：「I O S の兄弟姉妹たちよ。秋分の儀式を開始せん。」

### 5 律法の宰相の召喚

PC：「七つの封印を光体に刻印せん。」

PCは聖なる名前を唱えたあと、剣指をつくり、揃えた両膝に当てる。

参加者もPCの動作に倣う。

PCは聖名とともに唱える「わが脚を封じる。」

全員：「わが脚を封じる。」

PC、参加者は剣指を心臓に当てる。  
PC：聖名とともに「わが心臓を封じる。」  
全員：「わが心臓を封じる。」

PC、参加者は剣指を右肩に当てる。  
PC：聖名とともに「わが右腕を封じる。」  
全員：「わが右腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を左肩に当てる。  
PC：聖名とともに「わが左腕を封じる。」  
全員：「わが左腕を封じる。」

PC、参加者は剣指を首に当てる。  
PC：聖名とともに「わが首を封じる。」  
全員：「わが首を封じる。」

PC、参加者は両手を胸の前で組む。  
PC：聖名とともに「わが生命とすべての部分を守護するために。」  
全員：「わが生命とすべての部分を守護するために。」

PC、参加者は両手を頭上高く差し出しV字を形造る。  
PC：聖名とともに「わが天蓋を封じる。」  
全員：「わが天蓋を封じる。」

PCは封印の完成とトーラーの宰相への呼びかけを行う。  
祭壇の傍らにいるPCの上に覆い被さるように出現する巨大な天使の像がウシャブティを呑み込む。アケファロスの顔のないオーラに、律法の宰相のテレズマ的姿形が融合し、再形成されてPCの霊的外形が急激に変化する。  
PCが宣言する。

PC：「われは、聖なる五つの文字に表象される無敵の一者なり。  
五界を結ぶは、われなり。  
諸天界へ上昇せるは、われなり。」

## 6 七宮殿への遷移

PCは東を向いて宣言する。  
「I O S の神殿からシェヴァ・ヘハロースに遷移せん。」

PCは水の象徴を描いた。青緑色の湖が東の壁いっぱい広がる。PCはためらいなく大いなる水の面を歩き始める。参加者はそれに従う。

扉をくぐる。足下は、星々の燦々と輝く夜空に変わった。

第一天テベル・ヴィロンは、壮麗な星空であった。無重力の宇宙を浮遊するように前後左右の漆黒の領域を移動する。空間を切り裂いたような前方の扉をくぐり、第二天に入る。

第二天ラキアは、生ける火の湖であった。前方の壁から炎が滝のように落下している。その紅蓮の火の滝に乗ると、流れを遡り光体が滝の上に押し上げられていく。滝の頂点を越えると眼の前に炎の海が広がった。視線を上を転ずると、右側には無数の天使が帯のように重なり合い火の海に沈んでいく、左側を見ると同じ天使の帯が火の海を押し割って上昇していく。二つの天使の帯は上空でひとつに結び合わされている。扉をくぐる。

第三天シェカキムは、膨大な雲の領域であった。およそ、空を流れる雲のすべての種類がここにあった。一直線に伸びる鱗雲の背を滑るように進みながら、左右の雲海からせり上がる積乱雲の黒い腹部に、絡んだ糸のように走る稲妻を認めた。扉をくぐる。

第四天ゼブルは、水晶の都市であった。無数の高層と低層の建築物が半透明の宝石のような材質の石材で組まれている。あなたは遙か上空から都市の中心に掛け渡された水晶の橋を滑り降りていく。都市の中心には半球形の広大な寺院があり、黄金色の暖かい輝きが内部から都市全体を照らしている。寺院の入り口の扉をくぐる。

第五天マオンは、意外な場所である。荒涼とした大地が広がる空間なのだ。その大地には大きな裂け目があり、炎と煙が柱のごとく立ち上っている。裂け目のなかには、人間よりも遙かに巨大な影がうずくまっている。かれらはネフリム、掟を破り処罰の日を待つ天使たちである。扉を

くぐる。

第六天マコンは、剣のような山脈が織りなす雪山の光景である。雪山に開いた無数の洞窟には、雪、雹、霰、雨などの貯蔵庫があり、轟音とともにそれらを吐き出している。扉をくぐる。

第七天アラヴォースは、光の海である。四方すべてが、まばゆい輝きに満たされて、何があるかも判別できない。前方に僅かな陰がある。それは扉であった。

PCは、聖42文字の名前の最後の六文字を抑揚をつけて発声する。

「シェクツィット」

扉をくぐる。第一宮は、リバノース・ハ・サフィル（サファイヤの煉瓦組）という。

あなたは武装した天使に剣をつきつけられ、いささか乱暴に棍棒で右または左（利き足）の膝を叩かれる。その鈍い痛みとともに、膝の上に右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCは、聖42文字の名前の第六の六文字を抑揚をつけて発声する。

「ヤグレブツェク」

扉をくぐる。第二宮は、ゴナー（静謐）という。

あなたは再度武装した天使に剣をつきつけられ、棍棒で胸の中央、心臓のあたりを叩かれる。その鈍い痛みとともに、心臓の上に右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCは、聖42文字の名前の第五の六文字を抑揚をつけて発声する。

「シャクバトナ」

扉をくぐる。第三宮は、オツ・ハ・シャマイム（天の精髓）という。

あなたは武装した天使に剣をつきつけられ、棍棒で右腕上腕部の付け根の盛り上がった部分を叩かれる。その鈍い痛みとともに、右腕の上に右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCは、聖42文字の名前の第四の六文字を抑揚をつけて発声する。

「パトラツタグ」

扉をくぐる。第四宮は、ラツオン（おいなる喜び）という。

あなたは武装した天使に剣をつきつけられ、棍棒で左腕上腕部の付け根の盛り上がった部分を叩かれる。その鈍い痛みとともに、左腕の上に右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCは、聖42文字の名前の第三の六文字を抑揚をつけて発声する。

「ネガディケシュ」

扉をくぐる。第五宮は、ザコース（慈悲）という。

あなたは武装した天使に剣をつきつけられ、棍棒で喉を叩かれる。一瞬、呼吸がとまる。喉の上に右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCは、聖42文字の名前の第二の六文字を抑揚をつけて発声する。

「ケラシャテン」

扉をくぐる。第五宮は、アハバ（愛）という。

あなたは武装した天使に剣をつきつけられ、棍棒で額を叩かれる。視界を火花が満たす。額の上に右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



PCは、聖42文字の名前の最初の六文字を三つに分けて抑揚をつけて発声する。  
「アブ・ギー・タズ」

扉をくぐる。第七宮は、コデシュ・コデシム（至聖処）という。  
あなたは武装した天使に剣をつきつけられ、棍棒で頭頂部を叩かれる。頭皮の上に右の図形が血の滲む円盤状の焼き印として浮き出る。



これで七つの封印は、すべて天使の封印により塞がれた。  
第七宮において、完全に無垢の身となったあなたは、至聖処において、秋分の秘儀にあずかる。

PCは、至聖処の東に行き西を向いて言う。  
「この宮居は、光と闇の至聖処なり。  
今、宮居の上に秋分の太陽があり、  
光は闇と均衡せんとしている。  
われは律法の宰相として、  
秋分の執行を宣言する。」

## 7 秋分の主祭

PCは、至聖処の東側から中央を向いて言う。

PC：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。  
I a H a V a H a (ヤアー・ハアー・ヴァー・ハアー)  
H e V e H e I e (ヘイ・ヴェイ・ヘイ・イエイ)  
V o H o I o H o (ヴォー・ホー・イヨー・ホー)  
H I H V (ヘー・ヨド・ヘー・ヴァウ)」

PCが宣言する。

PC：「大いなる周行をもって、祭壇に集中せん。」

祭壇を軸として、3度周行する。

PC：「神秘なる周行は完成し、昼と夜は均衡した。秋分は到来せり。」

PCは、祭壇の西に廻り、東に向かってホルスのサインを行う。  
PC：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」  
PCは、祭壇の東に廻り、西に向かってハーボクラテスのサインを行う。  
PC：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の新しいパスワードは・・・なり。」

PC：「パスワードは交換された。」

全員が祭壇を取り囲む。

PC：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。  
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、  
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み輪のなかに祭壇を包み込む。

手を放すことなく次を唱える。

全員：「主よ。われらは自らを捧げん。  
わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。  
汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

全員、東を向く。

全員：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！  
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！  
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！  
光と闇の主よ。」

## 8 宮殿からの下降

PCは、至聖処の西に向かい門番の天使たちに向き合い、扉をくぐる。  
あなたが扉をくぐる都度、門番の天使たちは制止し、先の棍棒で対応する血の紋章の上を再び叩く。各門で叩かれる都度、紋章がひとつひとつ消えていく。  
第一宮で膝の紋章を叩き消されると、七天を矢のように下っていく。すべての扉が開かれ、七天は万華鏡のなかの七重の輪のように通り過ぎていく。  
あなたはマルクト神殿に帰還した。

## 9 諸天使の出立

PCは祭壇の北に行き、南を向く。

PC：「律法の宰相の加護に感謝する。  
霊の虚の場所に戻りたまえ。」

PCは再度、祭壇の西に行き、東を向く。  
PC：「聖なる五つの文字に表象される長老たちよ。  
I H S h V H (ヨド・ヘー・シン・ヴァウ・ヘー)  
万軍の将、霊の虚の場所に住まわん。  
I H V S h H (ヨド・ヘー・ヴァウ・シン・ヘー)  
戴冠せる王、霊の虚の場所に住まわん。  
光と闇の轆轤を逆転し、魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

PC：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。  
主の聖霊は、森羅万象の上であり、下であり、内にあり、外にもある。  
主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。  
律法の宰相は、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

## 10 地上への帰還

PC：「人の子らよ。律法の宰相は、去れり。されば、地上に帰還せん。」

PCは《ヴェールを閉じる》サインを行う。  
PC：「I H S h V HとI H V S h Hの御名において、  
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

PC：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

神殿の外へ出る。神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。(特別な手順は必要ない。)静かに目を開き、立ち上がる。  
法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。  
普段着に戻り、儀式についての個人的メモ(『魔法日記』用)を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA  
I O S  
RITUALE DE  
AEQUINOCTIO AUTUMNO A

IMPRIMI POTEST: I O S  
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR  
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6  
SEPTEMBER MCMXCX

秋分儀式 A E O S A

Copyrights © All rights reserved I O S 2005

2005年9月19日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。